

第2部 学校教育計画、学校評価及び外部評価委員会の概要

1. 令和5年度 昇陽中学校・高等学校「学校教育計画」及び「学校評価」の事業報告

令和5年度 昇陽中学校・高等学校「学校教育計画」及び「学校評価」

昇陽中学校・高等学校

校長 竹下 健治

I めざす学校像

建学の精神

「奉仕のこころ」

- 1 「For Others～奉仕のこころ～、志高く。」(建学の精神の再確認)
- 2 「10年後の私たちのために」将来の予測不能な社会を生き抜くことのできる人材づくり

教育目標、めざす生徒像

- 1 思いやりや感謝の気持ちや「奉仕のこころ」などを素直に表すことのできる高い人間性の育成
- 2 基礎学力を十分に積みあげた上で、自分の頭で課題や問題に向き合うことのできる思考力・判断力の育成
- 3 部活動や学校行事などに努力し共に励まし喜びを分かちあえる豊かな心と健やかな体の育成
- 4 個々の生徒の個性や能力や特性に合わせ、生徒の力を最大限に伸ばし、生徒・保護者に「行きたい・通わせたい」と思われる学校づくりをめざす。

II 中期的目標

- 1 基礎学力の充実から自ら考える力へ 「授業第一主義」
 - (1) 基礎学力の充実と「主体的・対話的で深い学びへ」
 - ア 授業学力の充実として宿題・課題とその定着確認を日々行う。また、自習室の設置や放課後、長期休業中の学習促進を図る。
※学習指標である GTZ 指標を基に、各コースの学力定着・学力向上を図る。
 - イ 「主体的・対話的で深い学び」のために ICT 教育やアクティブラーニングを推進する。
 - ウ IT フロンティアコースは4分野（プログラミング、制御「ロボット・ドローン」、アニメ、eスポーツ）を柱として育成する。
 - エ 各コースの目標を設定し、積極的に資格、検定を取得させる。また、進学・特進コースは模試による学力チェックや英語力の向上を図る。特に、中学校は英検の検定合格を重点とする。
 - オ 「昇陽塾」等を利用して、自学自習、補習、個別指導ができる体制を整える。
 - (2) 「For Others～奉仕のこころ～、志高く」の精神を実現し、人材育成の重点を、「教養」「英語（国際）」「ICT」とする。「教養」では、国語力、スポーツ、芸術、倫理観などの育成を図る。
 - (3) 100周年記念事業等で、ICT環境や食堂やトイレなどの改修を行い、学習環境の改善を図る。
- 2 個々の生徒に輝く居場所を作り、活力ある充実した学校生活を過ごさせる。
 - (1) 全コースで、時代に即した活力ある人材育成を図る。そのため、基礎学力を定着させ、応用的学力を向上させる。また、全コースの特色をさらに磨き、探究の学びや実践型学習や外部実習などに努める。さらに部活動や学校行事を活性化させ、生徒の可能性を最大限伸ばす。
 - (2) 「For Others～奉仕のこころ～、志高く」の精神を実現し、人材育成の重点を、「教養」「英語（国際）」「ICT」とする。「教養」では、国語力、スポーツ、芸術、倫理観などの育成を図る。
 - (3) 100周年記念事業等で、ICT環境や食堂やトイレなどの改修を行い、学習環境の改善を図る。
- 3 知・徳・体のバランスの取れた教育と豊かな人間性の醸成「生徒指導なくして学習指導なし」

- (1) 授業に集中できる学習環境、授業規律や生活習慣の改善
 - ア 時間の厳守、挨拶、身だしなみを整えさせる。予鈴の実施で「ベル始業」を徹底させる。
- (2) 人権意識の醸成
 - ア 人権研修（生徒向け、教職員向け）の実施（差別事象、ハラスメント、SNS、いじめ等多様な人権教育の指導）

4 魅力ある学校づくりに参画する教職員集団

- (1) 授業力向上の取組み
 - ア 相互授業見学や研究授業・研究討議で授業力向上に努める。また、積極的に外部研修や外部視察を行い、授業力向上の方法や学校運営方法などを学ぶ。
- (2) 生徒が輝く魅力ある学校づくり
 - ア 生徒が輝く魅力ある8コースへ切磋琢磨する教員集団（探究活動、各コースの活性化のための研修や会議）
 - イ 不登校生徒など配慮を要する生徒への組織的対応
 - ウ 新しい学校づくりへ、例えば3学期制から2学期制への2025年度開始の準備を行う
- (3) その他
 - ア 「チーム昇陽」の構築…組織運営、協働の意識を持つ。機動力ある組織作りと小会議やミーティングの開催
 - イ 「昇陽スタンダード」や懲戒規定の改訂を通じて、コンプライアンス（法令遵守）を徹底させる
 - ウ ICT環境を整え、ホームページを充実させる。SNS等を使用して積極的に外部発信する。（記録、更新の促進）
 - エ 保護者対象の学校アンケートを年2回実施する。

5 本年度、策定される中長期ビジョン「SHOYO NEXT 10YEARS」に則り、学校改革を進める。全ての教職員は、学校経営の当事者意識を持ち、毎年度その評価指標を検証する。

Ⅲ 本年度の取組み内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組み計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の充実から自ら考える力へ	(1)基礎学力の充実 ア 基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>学力指標 GTZ による学力定着および学力向上を図る</u> ・宿題・課題とその定着確認 ・自習室の設置 ・<u>放課後、長期休業中の講習の充実</u> ・朝の HR に朝読と朝テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断での生徒の「授業関係」肯定的評価 3%上げる。 ・<u>基礎学力テスト等の分析・検討</u> ・<u>各コースの GTZ を下げない。</u> ・講習の開講日数および参加者状況 ・朝テストの実施率 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価 3% 下がる△ ・テストごとに実施○ ・GTZ は現状維持。○ ・講習、長期休業中 37 日間。参加者 20～30 名○

<p>イ 「主体的・対話的で深い学び」の実践</p> <p>ウ ICT教育の展開</p> <p>エ ITフロンティアコースの4分野の展開</p> <p>(2)生徒が輝く居場所</p> <p>オ 各コースの目標設定・取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT教育やアクティブラーニングの研究授業実施 中学校1年、高等学校1年全員に、1人1台のクロームブックを使用させ、新たなICT教育の取組みを行う。 プログラミング、制御「ロボット・ドローン」、アニメ、eスポーツの取組み 各コースの特色ある学び キャリアビジョンの形成 英検、GTECの充実 英検、数検、漢検の受検促進 特進、進学コースの進路実現 探究の学びなどから総合型選抜受験 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教育関係施設整備状況 ICT教育事例 放課後の各活動状況 各コースの特色ある学び実践例 学校教育自己診断での「進路指導」関係評価3%上げる。 キャリアビジョン形成取組み キャリアパスポートの作成 英語の外部検定試験合格者数（英検、GTEC） 難関私立大学合格者数 	<ul style="list-style-type: none"> 朝テスト週3回○ 各授業でICT授業の定着 eスポーツのため開放 保育は桃教大との「保育とSDGs」で1年間授業を受ける◎ 看護は暁明館病院での実習○ 進路 肯定的評価2%下がる△ キャリアビジョン形成は大学見学、分野別説明会、適性検査、学校調べ○ キャリアパスポートは答案返却日に記入○ 高校2級6名（昨年度と同じ）準2級13名（昨年31名）△ 一般入試 産近甲龍大32
--	--	--	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率を高める ・就職・公務員希望者の進路実現 ・模試による学力評価 ・パティシエコースに製菓衛生師資格取得へ ・福祉コースの進路実現 ・中学校において英検・漢検・数検を更に受験させ、実績を上げる。 ・放課後、昇陽塾を開き、個々の生徒の学力に応じた指導をおこなう。 ・各コースのカリキュラム変更準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>総合型選抜入試の受験数</u> ・就職希望内定率を100% ・公務員試験合格者 ・介護福祉士国家試験合格率 85%以上 ・中学校英検等、昨年度以上 ・昇陽塾の利用状況 	<ul style="list-style-type: none"> 名◎ 関関同立大 11名◎ ・総合型入試 国立滋賀大学 ◎ ・学校幹旋就職 100%◎ ・税務職員(国家) 1名合格など○ ・介護福祉士国家試験 80%程度(予想) ○ ・中学校英検 3級 6名(昨年度以上) ◎ ・3年生と中心に検定前に利用
2 輝く居場所を作る	<p>(1) 新コースの立上げと人材育成など</p> <p>(2) 「For Others」などの人材育成</p> <p>(3) 施設整備の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進学コースとビジネス・IT フロンティアコースでの取組み ・<u>進学 I コース「ミネルヴァ・プラン」</u>での取組み ・<u>全てのコースの学力育成と特色ある取組み</u> ・各コースで「For Others～奉仕のこころ」の取組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学Ⅲコースの講習等の参加 ・<u>学校教育自己診断の学校満足度の上昇</u> ・「For Others」各コース取組み例 ・海外修学旅行や海外研修の取組み模索 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏から希望制に変更、サッカー部の一部は参加 ・ミネルヴァは大阪学でフィールドワーク多数◎ ・学校満足度ほぼ横ばい△ ・「For…」パティシエ就労支援のため区役所で販売◎ ・保育は「わくわく昇陽園」実施◎ ・海外修学旅行 シンガポール

				実施○
3 知・徳・体の教育と豊かな人間性の醸成	ア 授業に集中できる学習環境と授業規律	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による挨拶運動の実施 ・正門での「正門一礼」の実施 ・予鈴や入室指導の継続 ・「5分前集合」を徹底させる ・「昇陽手帳」の使用（1・2・3年生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回生徒会、部員による挨拶運動実施 ・教員による入室指導後ベル始業の徹底 ・学校教育自己診断「生徒指導関係」肯定的評価3%上げる ・「5分前集合」「授業集中状況」 ・遅刻件数を昨年度比<u>10%減少</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー部を中心に実施◎ ・ベル始業はできているが、教室移動が遅くなっている ・「生徒指導」肯定的評価4%下がる△
	イ 人権意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導の実施 ・通学指導の実施 ・生徒、教職員向け人権研修の実施（SNS、ハラスメント等の研修） 		<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻件数は昨年度とほぼ同じ△ ・人権研修実施
	ウ 学校行事や地域ボランティア、部活動指導の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・強化クラブの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・強化クラブの全国レベル大会出場 ・<u>社会貢献と地域連携の取組み</u> ・<u>部活動参加率</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校ソフトテニス部全国連覇◎ 男子バレーボール部春高バレー3位◎ ・ボランティア部が此花区と連携（子ども食堂など）◎ ・部活動参加率43%中学校81%◎

<p>4 魅力ある学校づくりに参画する教職員集団</p>	<p>(1) 授業力向上の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間の設定 ・授業アンケートの実施 ・各教科・科目のシラバスの充実 ・夏季休業中の外部研修受講 ・先進校訪問 ・各種委員会（将来構想委員会、ICT 検討委員会、入試問題検討委員会、教育相談委員会）による問題対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業見学、研究協議の実施 ・<u>教職員「昇陽スタンダード」の策定と改訂</u> ・<u>観点別評価実施状況</u> ・教職員研修会の開催件数 ・<u>先進校訪問</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間実施○ ・昇陽スタンダードの教職員周知○ ・観点別評価実施◎ ・夏休み人権研修○ ・香里ヌヴェール学院「探究の学び」で訪問◎
	<p>(2) 魅力ある学校づくり ア 魅力ある 8 コース</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>進学 I コースのミネルヴァプランの立上げ</u> ・<u>各コースの探究の学び等の活動</u> ・IT フロンティアコースの外部講師の招へい ・不登校生徒の組織的対応 ・<u>生徒の欠席等の日常生活の把握</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ミネルヴァプランの実施状況</u> ・<u>IT フロンティアコースの外部講師の招へい回数</u> ・教育相談委員会の開催数など ・<u>中退者の減少</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミネルヴァは大阪学 3 学期に発表◎ ・IT フロンティアは招へい回数増加、訪問回数は年 2 回◎ ・定期的開催で情報共有◎ ・中退者は昨年度より半減した◎
	<p>(3) その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>2 期制への準備</u> ・懲戒規定の刷新 ・学校ウェブサイトの刷新 	<ul style="list-style-type: none"> ・懲戒規定の刷新 ・学校ホームページの更新状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・懲戒規定実施できず△ ・インスタグラムの導入◎ ・ホームページの更新は減少△ ・ホームページはリニューアル予定

2. 令和5年度 昇陽中学校・高等学校 外部評価委員会 事業報告

○根拠規定：学校法人淀之水学院 外部評価委員会規程(平成30年9月8日制定)

令和5年度 第1回 外部評価委員会

日時：令和5年12月2日(土)

参加者：此花区長、近隣中学校長、大学教授、教育関係者、保護者会会長、本校事務局(教頭、中学校主事、事務長、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長)

内容：(1) 令和5年度 学校教育計画について

(2) 現状報告

助言等：

- ・不登校生にもいろいろな育成方法があると思われる。不登校生徒の原因の類型化を行い対応する必要があるのではないか。
- ・公務員コースなどがあるが、区役所などと連携したらどうか。区役所訪問なども良いと思われる。
- ・看護コースなどは森ノ宮医療大学と連携するのはどうか。
- ・来年は大阪万博がある。地元として連携するのはどうか。エキスポからツーリズムについて学ぶのはどうか。
- ・学校は環境づくりが大切と思われる。「人が環境を作り、環境が人を作る。」

令和5年度 第2回 外部評価委員会

日時：令和6年3月16日(土)

参加者：此花区長、近隣中学校長、大学教授、保護者会会長、本校事務局(教頭、中学校主事、事務長、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長)

内容：

(1) 令和5年度 学校評価総括

- ・大学進学に一定の成果が上がったが、斡旋就職100%、介護福祉士国家試験90%以上合格など、いろいろなコースで進路実現できている事が昇陽らしいところ。遅刻者数も横ばいであったが、欠席者数は減ったなど、生徒を学校に向かわせるように努力したい。
- ・一般入試での合格は素晴らしい。また、「For Others」の取組みを活かして総合型入試にチャレンジするのも良い事だ。退学が減った事も評価できる。
- ・アンケート結果を見ると、大人がいいと思ってやっている事が子どもに通じていないところもある。コロナ禍で丁寧にやっていたことが、通常に戻った事で雑になっていると評価されている事もあるのではないか。進学の面で成果が上がっているが、大学生になった昇陽生が関わってもらえれば、さらに面白くなる。
- ・入学時、推薦で大学に行ければと思っていた娘が、友だちと刺激あって希望ももてるようになった。

(2) 令和5年度 学校教育自己診断結果総括

(高等学校)

- ・高校生は全体的に昨年度より全体的にわずかにポイントを下げた。(5年間推移では上がっているが)「分かりやすく学習習慣がしっかり身につく授業が行われていると思いますか。」約4ポイント下がった。
「昇陽高校は日頃より日常生活のマナーや社会のルールを守るように取り組んでいる。」約4ポイント下がった。全体的に的確な学習指導や生徒指導ができているのか考える必要がある。
また、学校行事で生徒の結果が顕著であった。文化祭は昨年度比10ポイント上げ、芸術鑑賞は7ポイント下がった。
学校行事の内容に生徒の素直な評価が出たと思われる。これからも学校の教育目標に沿いながらも生徒の興味関心を持たせることのできる内容にできるように精査・吟味する必要がある。
- ・保護者の方も全体的にわずかにポイントを下げた。(5年間推移では上がっているが) その中で、「昇陽高校の教育で、お子様

の個性や能力が発揮されている。」が8ポイント増えた。

「保護者活動が活発で、学校とよく協力が出来ている。」が約10ポイント増えた。

一方、「進路指導は、生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている。」が約7ポイント下げ、「人権教育は人権意識を高めるために効果的に行われている。」が約10ポイント下げた。

教育活動の保護者への発信について、丁寧な説明が必要と思われる。

(中学校)

・中学生は全般的に昨年度より大きく下回った。中学校は母数が少なく、学年によって差がある事などで大きく変化したと思われる

・「昇陽中学校での中学生生活に満足しているか」が約14ポイント下がった。

「分かりやすく学習習慣がしっかり身につく授業が行われている。」が約10ポイント下がった。

・一方、「先生は質問や相談に丁寧に応じてくれていると思われる。」が約5ポイント上がった。

・中学校保護者も昨年度に比べて厳しい評価が多い。

「保護者懇談会は満足できるものであったと思われる。」が30ポイント下がった。担当が交代したこともあり、学校側の教育活動に対する説明を十分にする必要があったと思われる。

(教職員)

・「情報の発信に伴う責任など、情報のモラル面の教育に十分に取り組んでいる。」が約5ポイント下がった。

・「人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を、教員が研究する体制がある。」が約6ポイント下がった。

などは学校の根幹をなすものであり、周知や研修を徹底する必要がある。

・「在校生も、卒業生も共に学校に誇りを持っている。」が低い。大人が学校を誇りに思う事が大事である。

・一方、「事故、事件、災害等に対処する役割分担が明確にされている。」が約9ポイント上がった。「地域との交流が出来る。」が約14ポイント上がった。

「生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。」が約7ポイント上がった。

「カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用ができている。」が約5ポイント上がった。

教職員は、日々の地道な教育活動の重要性は自覚していると思われる。